



AU 通信

芦屋ユネスコ協会

事務局 〒659-8501 芦屋市精道町7-6

芦屋市教育委員会 社会教育部

生涯学習課内

TEL 0797-38-2091

FAX 0797-38-2089

ホームページアドレス

<http://www.unesco.or.jp/ashiya/>

Eメールアドレス

ashiya@unesco.or.jp

発行：芦屋ユネスコ協会
会長 広瀬忠子

「戦争は心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」

芦屋ユネスコ協会「平和の鐘を鳴らそう」行事 2007年8月15日（水）

「優愛の鐘」を鳴らす参列者（芦屋市民センターで）



「終戦記念日」の15日、阪神間でも戦没者を追悼する様々な行事があり、参列者たちは戦争にゆかりのある鐘を鳴らしたり、お年寄りから体験談を聞いたりするなど62年前へ参拝として思いをはせ、平和を祈った。

追悼の鐘、炊き出し試食

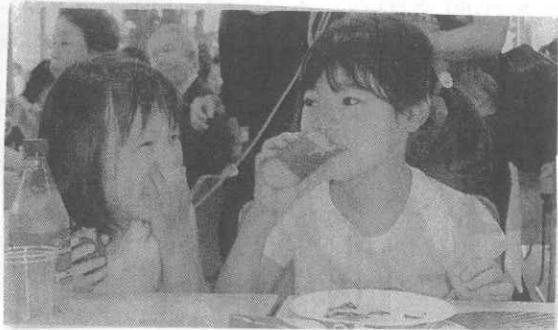
芦屋市平野町の市民センターでは約80人の参列者が、阪神大震災後に犠牲者鎮魂のため設けられた「優愛の鐘」を、戦没者慰靈を胸に鳴らした。

その後、センター内で食糧難だった戦時中を思い出そうと、芦屋ユネスコ協会のメンバーが炊き出したふかしイモを試食した。

参列したお年寄りが「3期下の15、16歳だった70人以上の海軍予科練生が鳴門海峡を航行中、米軍機の襲撃に遭い亡くなつた。年端の行かない少年まで犠牲に追いやるのが戦争」「終戦の年の春、陸軍将校だった夫と結婚した。食糧難で、結婚式の翌日にホテルでとった朝食は『卵だけ』などと当時の出来

事話を語り、訪れた人々に語られた同市翠ヶ丘町、司法書士上野義治さん(69)は「終戦時は7歳で記憶がないまいな部分もある。先輩方の話を聞くことで、孫たちが戦争の悲惨さを学んでくれたら」と話していた。





戦時中によく食べられたふかしイモを味わう子どもたち=芦屋市業平町で

62回目の終戦記念日を迎えた15日、阪神間の各地でも戦争の犠牲となつた人たちを悼む式典や戦争体験を語り継ぐ催しが開かれた。厳しい残暑の中、多くの市民が参加し和平を願つた。

追悼や鐘つき 体験談を聞く

終戦記念日

芦屋市業平町の市民センターにある「優愛の鐘」前には正午から、芦屋ユネスコ協会の会員ら約80人が集まり、平和を願つて一人一人鐘を突いた。同協会の広瀬忠子会長(80)は「天災と違い、戦争は私たちの心の持ちようで防げる。一人一人が平和な心を持つて暮らしていきたい」と話した。

参加者はその後、同センター内で戦時の「ごちそう」だったおにぎりとふかしイモを食べながら、戦争体験者の話に耳を傾けた。

母方の実家のある芦屋市に帰省中の三重大付属小2年、鶴飼凜さん(8)は「おイモはおいしいけど、毎日だと嫌になるかも」と、戦時の食卓に思いをはせていた。

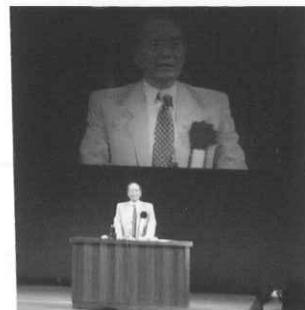


第63回日本ユネスコ運動全国大会 in 山口 開催される



民間ユネスコ運動発祥60周年記念
第63回 日本ユネスコ運動全国大会 in 山口 みんなちがって、みんないい
～今こそめざそう 多文化共生～
主催：(社)日本ユネスコ協会連盟 山口県ユネスコ協会連盟 山口ユネスコ協会

民間ユネスコ運動発祥60周年記念「第63回日本ユネスコ運動全国大会 in 山口」が9月1日～2日山口市民会館で開催された。全国各地の各協会から約千人の会員が参加し、『みんなちがって、みんないい—今こそ めざそう多文化共生』地元の詩人、金子みすゞの詩の一節を引用したことばを大会テーマとして、講演やシンポジウムが行われた。開会宣言で松田会長が「世界に先駆けて始まった運動は六十周年を迎えたな運動方針の確認やロゴマークも作成さ



れた。既成にとらわれず堂々と、個人個人が世界中で手をつなぎ合う運動を広げていこう」と呼び掛けた。ユネスコ本部(パリ)から松浦事務局長が駆けつけ、六十周年によせて「平和には諸国民が連帯を深める相互交流が大切。世界二十四億人が一日二ドル以内で暮らしている実情を紹介し、戦争の原因は相手国の不信であるが、平和を築き貧困を撲滅することが非常に重要になっている」と指摘した。基調講演では、矢崎・金子みすゞ記念館館長が「私とあなた」ではなく「あなたと私」の眼差しに替え人間の傲慢さを捨てて、みすゞと同じように全てのものは存在するだけで素晴らしいと思う事が出来れば、戦争も争いもない世の中になると訴えた。シンポジウムは「多文化共生社会の実現とユネスコ活動」とし青柳国立西洋美術館館長をコーディネーターとして幸田国際連合広報センター所長、服部ユネスコ事務局長官房・特別参与、松田日本ユネスコ協会連盟会長がパネリストとして、熱心な意見の交換が行われた。「多文化の重要性と互恵の精神」「平和と環境問題」「民間ユネスコ活動のあり方」などそれぞれの専門分野から多くの自論と意見が述べられ、異なる民族や宗教・文化を互いに認め合う多文化共生の社会の実現にむけてのユネスコの役割に尽いて数多くの問題提起がなされた。幕間では山口ジュニアオーケストラの演奏や、金子みすゞの詩をモチーフにした舞踊、観光山口のPRなどが上演され、夕刻からは東南アジアから10カ国40名のユネスコ代表を含め大レセプションが行われ会員同士が歓談・情報交換を交わしながら仲間としての絆を強く結び合った。二日目は「世代をつなぐユネスコ活動」「地域に広げる世界寺小屋運動」など四つの分科会で会員活動の事例発表や討議・意見交換が熱心に行われ役立つ分科会であった。その後まとめの全体会議と閉会式で今回の幕を閉じた。芦屋からは、森副会長、塩井努常任理事、塩井(君)理事、山田事務局長が出席した。

(報告者:山田事務局長)

※ 来年の全国大会は、6月7日(土)～8日(日)に東京・目黒で開催される事に決まった。テーマは「あなたが明日の地球を創る…失われた”勿体ない“の精神を再び…」の予定。

早いもので今年もいよいよ年末が近づいて参りました。皆様には如何がお過ごしでいらっしゃいますでしょうか。

今年度も恒例の芦屋ユネスコ協会の 年末講演会＆親睦会 を下記要領にて開催いたします。どうぞ奮ってご参加下さいますよう ご案内申し上げます。

記

日 時 : **2006年12月18日(火)** 18:00~20:30(受付: 17:30~)

場 所 : ホテル竹園 3階

内 容 : 講演会・・・外務省特命全権大使（関西担当）山崎 隆一郎様

食事会・・・フリードリンク

ビンゴ・・・景品多数

会 費 : 6,000円 (学生 3,000円) 一ビンゴ券1枚付き : 当日受付にて

お願い ①**ビンゴ景品提供にご協力をお願い致します。家に眠っているもの(新しいもの)をお持ち下さい。当日受付にてお渡しくだされば助かります。よろしく。**
②**書き損じハガキがあいましたらご持参下さい。**

どうぞ、ご家族の方、ご近所の方、お知り合いの方、特に若い方、お子さん方お誘い頂き、ご一緒に参加頂きますようお願い申し上げます。今からご予定を頂きまして、ご参加の程、よろしくお願い申し上げます。

書き損じハガキご提出のお願い

家の中に残されている未使用の古い葉書(書き損じハガキ)がありましたら、是非ご提出下さい。頂きました葉書はお金に換えられ、世界の非識字者のための学校建設や子供たちの学用品調達などの資金になります。(この運動を世界寺子屋運動と呼んでいます)

書き損じ葉書1枚で45円の募金になります。ネパール国では葉書1枚で鉛筆が7本買え、アフガニスタン国ではノート1冊とボールペン2本買え176枚で1人が1年間学ぶ事が出来ます。あなたの葉書で沢山の人の夢を叶えることが出来るのです。あなたの優しさで世界が変わります。

1枚でも多くの書き損じハガキが集まり世界の平和につなげて頂きたいと、ご協力お願い致します。芦屋ユネスコ協会では、年間を通じて書き損じハガキのご提供を受け付けております。

お知り合いの皆様にもご協力をお願いして下さい。

～あなたの ハガキで 幸せを～



編集後記

今年の夏の暑さは格別でしたね。私は少しバテました。そんな中での「平和の鐘を鳴らそう」行事は、色々な新聞に取り上げていただきました。皆様に見ていただきたく写真が多くなりました。NHKのニュースにも放送されました。

涼風が立てばすぐ年末のお知らせです。少し気が早いようですが体調を整え「年末講演会＆親睦会」でお会い出来るのをたのしみに・・・

本荘 美恵